

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
生活支援とICF	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> ①生活支援とは ②生活を把握する方法 2. ICFの視点とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> ①ICFの考え方 ②ICFの視点とアセスメント ③ICFと生活支援具術のアセスメント 	

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
居住環境の整備と福祉用具の活用	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 居住環境の意義 <ol style="list-style-type: none"> ①居住環境としての住まい ②住まいの役割 2. 生活空間と介護 <ol style="list-style-type: none"> ①その人らしさを実現する居住空間 ②居住環境のアセスメント 3. 福祉用具の活用 <ol style="list-style-type: none"> ①福祉用具とは ②代表的な福祉用具 ③生活で福祉用具を活用する視点 	

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
移動・移乗の介護技術 の基本	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動・移乗の介助を行うにあたって <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ移動をするのか ②残存能力の活用と自立支援 ③ボディメカニクスの活用 ④重心と姿勢の安定 ⑤ICFの視点と移動・移乗の介助のアセスメント 2. 体位変換の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①体位変換の介助を行うにあたって ②体位変換の介助におけるアセスメントの視点 ③自立度が高い利用者の体位変換の介助 3. 車いすの介助 <ol style="list-style-type: none"> ①車いすの介助を行うにあたって ②車いすの介助におけるアセスメントの視点 ③車いすの基本構造 ④自立度が高い利用者のベッド・車いす間の移乗の介助 ⑤車いすの介助 4. 歩行の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①歩行の介助を行うにあたって 	

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
食事の介護技術の基本	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事の介助を行うにあたって <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ食事をするのか ②配慮すべきポイント ③ICFの視点と食事の介助のアセスメント 2. 食事の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①自立度が高い利用者の食事の介助 	

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
入浴・清潔保持の介護 技術の基本	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入浴の介助を行うにあたって <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ入浴・清潔保持を行うのか ②配慮すべきポイント ③ICFの視点と入浴の介助のアセスメント 2. 入浴の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①自立度が高い利用者への介助の視点 3. 部分浴の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①手浴・足浴の介助 ②洗髪の介助 ③シャワー浴 4. 清潔保持の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①清拭による清潔保持 ②清拭の介助 	

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
排泄の介護技術の基本	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の介助を行うにあたって <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ排泄をするのか ②配慮すべきポイント ③ICFの視点と排泄の介助のアセスメント 2. 排泄の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①自立度が高い利用者への介助の視点 	

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
着脱、整容、口腔清潔 の介護技術の基本	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身じたくの介助を行うにあたって <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ身じたくを整えるのか ②ICFの視点と身じたくの介助のアセスメント 2. 衣服着脱の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①衣服着脱の介助を行うにあたって ②衣服着脱の介助におけるアセスメントの視点 ③自立度が高い利用者の衣服着脱の介助 3. 整容の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①整容の介助を行うにあたって ②整容の介助におけるアセスメントの視点 ③整容の介助 4. 口腔清潔の介助 <ol style="list-style-type: none"> ①口腔清潔の介助を行うにあたって ②口腔清潔の介助におけるアセスメントの視点 ③口腔清潔の介助 	

介護職員実務者研修シラバス

事業所名 ワーキンエバー株式会社

科目名	生活支援技術 I	合計時間数	30
到達目標 (授業の目的・ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点留意点を理解している。 		
教育に含むべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICF ・ボディメカニクスの活用 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ・環境整備、福祉用具活用等の視点 		
科目の細目名	授業時間数	講義内容	
家事援助の基本	6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と家事の理解 <ol style="list-style-type: none"> ① 自立生活を支える家事 ② 介護職が行う家事援助の専門性 2. 調理 <ol style="list-style-type: none"> ① 調理の援助 ② 調理の援助の実際 ③ 食材と栄養に関する知識 3. 洗濯 <ol style="list-style-type: none"> ① 洗濯の援助 ② 洗濯の援助の実際 ③ 衛生と衣服のもつ機能に関する知識 4. 掃除・ごみ捨て <ol style="list-style-type: none"> ① 掃除・ごみ捨ての援助 ② 掃除の援助の実際 ③ ゴミの捨て方 5. 衣服の補修・裁縫 <ol style="list-style-type: none"> ① 衣服の補修・裁縫の援助 ② 裁縫の基本的な技術と方法 6. 衣服・寝具の衛生管理 <ol style="list-style-type: none"> ① 衣服・寝具の衛生管理 ② 衣服の衛生管理 ③ 寝具の衛生管理 ④ シーツのたたみ方 	
【使用テキスト】 中央法規出版 「介護職員等 実務者研修テキスト 第2巻		【評価方法】 科目別小テストに対し、A=90点以上、B=80点以上C=70点以上、D=69点以下の4段階にて評価し、C以上を合格とする。	